



医療安全対策

医療安全対策担当部長 西脇 正美
次長 久下 久美子

医療安全管理室では、当院の基本理念である「やさしさとぬくもりのある質の高い医療を実践し、地域の基幹病院として住民の安心に貢献します。」に不可欠な「医療の安全」を支えております。

平成23年度から、医療安全管理室に、専従の医療安全管理者1名が配置され、それまでより細やかな活動が可能になりました。活動内容は、院内外の情報収集(危険の予知、ヒヤリ・ハット事例、アクシデントなど)、その分析、必要なものについては対策を立て、現場および病院全体にフィードバックしております。また、医療安全を浸透させるために、全職員を対象に教育・研修を行い、部署特有な内容については部署・集団ごとに教育・研修をおこなっております。このような活動は、組織横断的に行われ、各職種・各部門の代表者が「リスクマネジメント部会」に集まり情報共有・検討を行い、さまざまな活動に参加し、知見・問題点は各部署に持ち帰っております。このような活動を通じて、医療活動を安全におこなう風土の形成、人材の育成をはかり、「やさしさとぬくもりのある質の高い医療」が安全に実践できるようにしております。

活動のひとつに、「医療安全ラウンド」が毎週定期および臨時に行われておりますが、職員の医療活動現場でのチェック・相談・教育などができる良い機会です。多くの職員とコミュニケーションがとれる機会でもあります。



院内の情報収集のひとつとして、不具合が見つかったが行われていないレベル0のヒヤリ・ハット報告も当事者あるいは発見者に積極的に報告してもらい、予知～防止やマニュアル改善に役立てております。ヒヤリ・ハット報告で、平成24年度は、23年度に比べ特にレベル0の増加がみられております。

医療安全管理には、各種マニュアルが必要となりますが、「医療事故防止マニュアル」を中心に、各種のマニュアルの作成・改定も重要な活動です。こちら、組織横断的に、各職種や部門のマニュアル作成に関わります。適正なマニュアルを作成することで、いろいろなレベルの職員が、質の高い医療をより安全に遂行できます。

職員のみならず、患者さんや家族の方とのコミュニケーションもはかります。患者さんや家族と面談し、疑問やクレームを聞いたリ診療状況を説明して信頼関係を保つこと、治療に協力していただくことも、安全な医療には重要と考えております。

なお、当院は県立病院ですので、兵庫県立病院の14施設が連携しながら医療安全を推進しており、定期的に会議をもち情報交換しております。

先生方からも、当院の医療安全につきましてご指摘がございましたら、医療現場の改善に生かしていきたいと考えております。



医療安全月間ポスター



第3回 東播皮膚・創傷ケア研究会 (褥瘡対策委員会主催)

褥瘡対策委員会院外勉強会グループ

木又久仁子 三宅かおり 福田恵梨佳 大野真孝 足立厚子

多数の御参加、御協力ありがとうございました

褥瘡や生活習慣病の予防や治療は在宅・病院・診療所での多職種の医療福祉従事者がチーム医療で関わるのが重要です。地域の皆様に向けての研究会を2012年10月11日木曜日夕方、当院講堂で施行し、盛会裏に終了することができました。院外から76名、院内より55名計131名の御参加をいただき、内訳は看護師59名、薬剤師30名、医師15名、ケアマネジャー10名、介護士4名、栄養士5名、理学療法士2名、事務系1名、学生5名で、チーム医療を行っていくために必要な様々な職種の方が、褥瘡やフットケアをより深く学ぼうと考えてくださっていることがわかり、心強い限りでした。簡単ではありますが、発表内容を紹介させていただきます。

テーマ① これだけは知っておきたい褥瘡予防及び治療・栄養指導介入の意義

① 局所陰圧療法が有効であった、多発褥瘡及び皮膚潰瘍の各一例

…………… 看護部 福田 恵梨佳

重症の褥瘡治療において、最近院内でよく施行されているVAC療法の有用性、事例をもとにお話しました。

VAC療法の概要とそのメリット

(治療の概要)

・創面を閉鎖性ドレッシング剤で密閉し、閉鎖した空間を持続的に低圧吸引(75~125mmHg)する。
 (*従来はこの方法に適した製剤がなく、吸引チューブやフィルム材を用いて試行錯誤していたが、なかなか望む効果が得られなかった。)



(この結果得られるメリット)

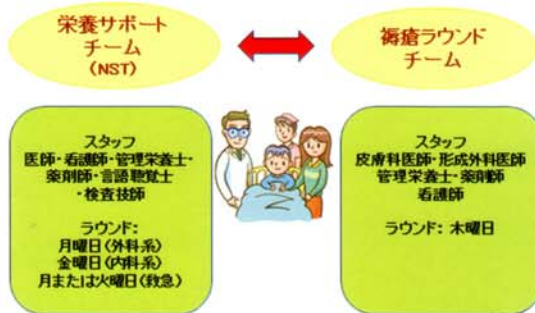
・持続的な陰圧がかかることで、①感染性老廃物の過剰な浸出液のドレナージ効果が得られる。また③局所血流が増加する。
 →①菌量/感染の制御②処置頻度の低下~コスト/時間/マンパワーの軽減③肉芽増生や上皮化の促進

② 褥瘡治療における栄養指導介入による効果

…………… 管理栄養士 高橋 千恵

褥瘡ができてからのみならず、予防として栄養管理が重要な事についてお話されました。気づかないうちに低栄養になっている可能性があるとお話しました。

加古川医療センターでのチーム医療



③ 局所陰圧閉鎖療法(VAC)と創傷被覆材

…………… 形成外科医師 吉武 優

創傷治癒のためには壊死組織の除去や感染コントロールとともに湿潤環境の保持が必要で、そのためには効果的な創傷被覆材の適切な選択と使用、VAC療法が必要であると詳しく話されました。

Wound Bed Preparation

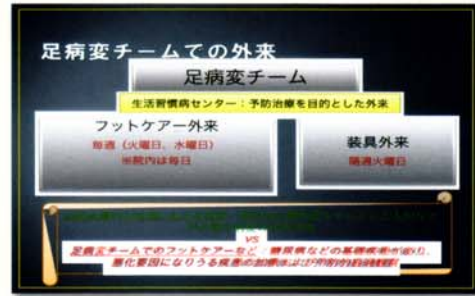


テーマ② 糖尿病を中心とする生活習慣病に伴う血管病変と足病変を身近にケアする

④ 生活習慣病センターでの足病変の取り組み

…………… 皮膚科医長 佐々木 祥 人

糖尿病足病変発症には、末梢神経障害、自律神経障害、末梢血管障害が関与します。多職種が参加し、生活習慣病センターの中の足病変チームが取り組むことで、予防および治療効果が上がります。

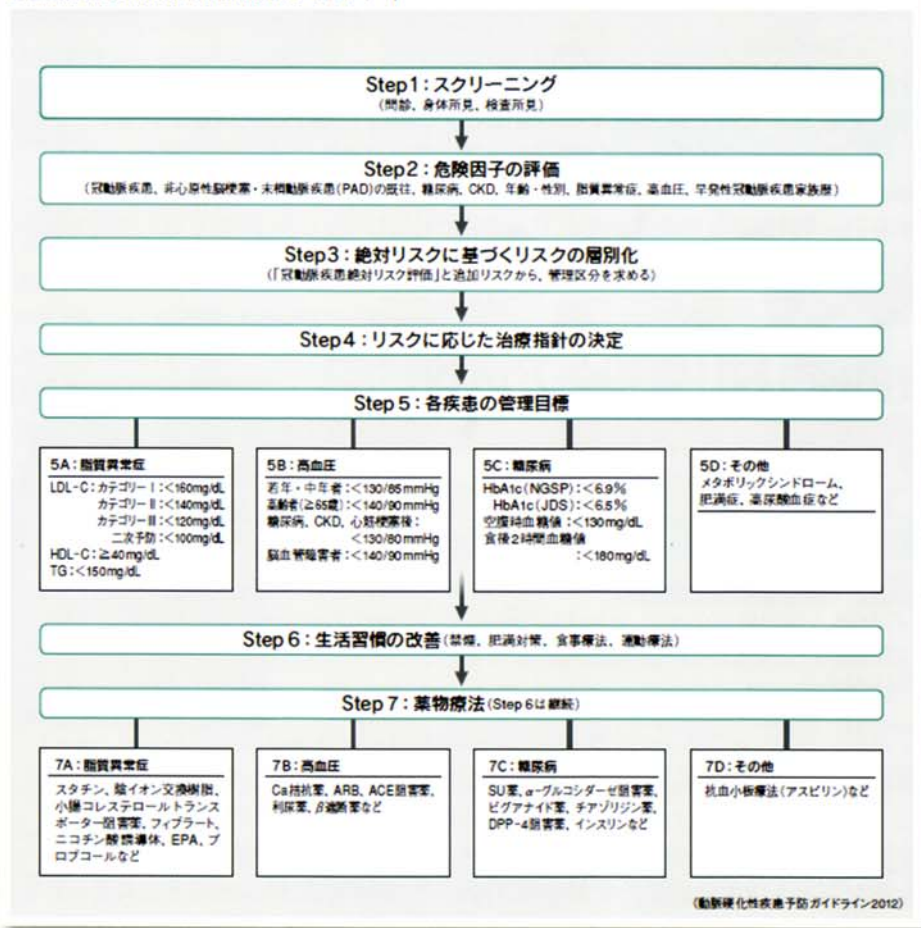


⑤ 糖尿病患者における心臓・末梢血管病変の予防と治療(内科的観点より)

…………… 循環器内科医長 福田 亨

致死率の増加や、QOLを下げる心血管、脳血管障害の発症はリスクファクター(肥満、高血圧、高血糖、高コレステロール血症)の保有数によってかわります。予防には何が必要かについて説明されました。

動脈硬化性疾患予防のための包括的リスク管理チャート



⑥ 糖尿病患者における心臓・末梢血管病変の予防と治療(外科的観点より)

…………… 心臓血管外科部長 西脇 正美

外科的治療の適応や治療について画像を用いて説明されました

糖尿病性足疾患の特徴

- 糖尿病患者においてはPADのリスクは3~4倍となり、HbA1cの1%の増加ごとにPADのリスクは26%増加するとのデータがある。平均発症年齢は約10歳若年に変移し、肢切断に陥る可能性も増加する。
- 一般のPADは腸骨動脈から腿動脈に始発するが、糖尿病患者のPADは下肢の動脈を侵す頻度が高い。しかし抹消の足部の動脈は閉塞を免れていることが多い。動脈には石灰化が見られることが多く、合併する腎症による末期腎不全患者では特に著しいことが多い。

循環器病の診断と治療に関するガイドライン(2005-2008年度合同研究班報告)

外来

部署紹介

当センターでは、ブロック毎に各科の診察が行われ、採血や処置、検査は中央で行っています。診察ブロックは4ブロックあり、処置や検査、患者指導、病名告知時の同席と告知後の支援をブロック看護師17名で行っています。外来患者さんだけでなく入院患者さんの検査・処置も外来で行います。

乳腺外科では毎週プレストミーティングで患者の情報交換を行い、泌尿器科では内視鏡や透視検査、ESWL、前立腺生検を行っています。耳鼻科でも内視鏡検査や処置を行っています。内科患者さんにはトリアージなどの対応をし、患者指導も実施しています。皮膚科では治療や生検、創傷処置や、アレルギー外来の対応を行っています。

中央処置・化学療法・採血室では10名の看護師が勤務しています。中央処置室は合計10台のベッド・リクライニングチェアを設置し注射、輸血、自己血貯血など処置や検査に対応しています。また、検査やブロック、術後の安静、外来診察を待つ患者の待機にも対応し、その数は1日平均70名です。

化学療法室では合計10台のベッド・リクライニングチェアを設置し、抗ホルモン剤注射や化学療法治療患者1日平均30名の対応をしています。

採血室では、3台の採血台で1日平均200名の対応をしています。

内視鏡室・放射線検査室では、7名の看護師が勤務し、内視鏡3室、X線TV2室、アンギオ2室、CT 1室で、様々な検査治療に対応し、定期検査や緊急検査などにスムーズに対応できるよう努めています。また、CT検査の対応は3名の看護師が行い、造影時の血管確保も看護師が行っています。

外来では経験豊富な看護師が多く、経験を活かして個々の力を発揮し、協力体制を図りながら、安全に留意して患者さんへの看護を実施しています。



3階西病棟(緩和ケア病棟)

病棟紹介

緩和ケア病棟 理念

緩和ケアを必要とする患者様・ご家族に、緑に囲まれた加古川の自然の中で、和み(なごみ)のこころと場を提供し、その人がその人らしく生きることを支援していきます。

緩和ケア病棟では、がんによって生じる痛み、その他のつらい症状や悩み・不安などを和らげ、心のつらさに寄り添い、その人らしく穏やかな生活が送れるように多職種のメンバーが協力しケアを提供しています。

病床数は25床 全室個室で病室から屋外庭園にでることができます。

職員は、緩和ケア内科医師2名、看護師は緩和ケア認定看護師1名を含め経験豊かな看護師揃いです。その他に、がん看護専門看護師 薬剤師 PT MSW 栄養士等の多職種と協働・連携し実践しています。

また、ボランティアの方々もチームの一員として患者さんの入院生活に潤いと安らぎを提供できるように活動しています。

☆緩和ボランティア「心愛(ここあ)の会」 ☆音楽療法 ☆アロマケア



編集後記

2月といえば、お家で鬼の面をつけたお父さん?に豆を投げて鬼を追いやる節分があります。本来節分とは、「季節を分ける」つまり季節が移り変わる節日を指し、立春・立夏・立秋、立冬とそれぞれの前日に、1年に4回あります。豆まきは中国の習俗が伝わったものとされています。豆は「魔滅(まめ)」に通じ、無病息災を祈る意味があります。また鰯の頭を、柊(ひいらぎ)の小枝に刺して戸口に挿す風習は、近世以降行われるようになったもので、魔除けのため、また、巻き寿司を食べる風習は、福を巻きこむという意味と縁を切らないという意味が込められているそうです。

